

おひさましレポート

OHISAMA REPORT 2017. 1. 5 No. 99

発行責任者/広吉敦子 〒152-0003 目黒区碑文谷6-1-19 アネックスST 1階 TEL/FAX 03-3791-8069 http://meguro.seikatsusha.net

広吉敦子の議会報告



第4回
定例会

いじめ問題は根本的解決を！ 空地の暫定利用で人とのつながりを！

■国は国際社会で活躍する人材の育成のために、「知識を得るだけの教育」から「自ら学び知識を生かす教育」への転換と、英語教育や道徳の教科化を盛り込んだ新指導要領の改定を予定しています。それに先立ち、目黒区では「めぐろ学校教育プラン」に新規事業を盛り込み、その中で「いじめ防止対策条例」を策定しようとしています。しかし、根本的な解決につながらず、子どもの持つ「自ら解決する力」を奪うのではないかと危惧します。

■また、より豊かなまちづくりをすすめるためには、様々な工夫が必要になります。都会に潤いを与えてくれる「空地・空間の活用」を、区民との協働によりすすめることは有効だと考えます。そこで、大きく2点について区長の姿勢を質しました。

いじめ防止対策について

■教員の管理強化はやるべき

現在、国の有識者会議では「いじめの情報共有の義務化」が議論されています。いじめがあった場合はチームで対応すべきだとは思いますが、いじめの情報共有を義務化すること、推進することには大きな違いがあります。義務化は管理体制を強くし、教師が萎縮して自主性が阻害されてしまう危険性があります。教師間の信頼関係により解決へと導くためには、義務化はそぐわないため、やるべきだと考えます。

■子どもが主人公の条例づくりを

2011年の大津のいじめ事件を受けて、国は2015年に「いじめ防止対策推進法」を制定し、翌年東京都は「東京都いじめ防止対策推進条例」を施行しました。全国で条例化の動きがありますが、いじめの定義・方針・取組などは各自治体で独自に定めることができます。目黒区では次回の(2017年3月)議会で条例化を予定していますが、子どもと大人の関係を保護される側・する側と固定化させてしまわないよう、注意が必要です。

■子どもの自ら解決する力を奪うな

大人が子どものいじめに介入する時期や仕方は大変難しく、一歩間違えばいじめが複雑化、深刻化、長期化する可能性があります。大人は常に子どもにも目を向けて微かな変化も察知し、まずは子どもが自ら解決できるようにサポートしつつ、見守ることが大切です。そして、常日頃から子どもとの信頼関係を築き、いつでも相談が受けられるよう体制を整えておくことが必要です。

■いじめの加害者と被害者と分けることをやめよ

昨日までいじめをする側だったのに、今日からはいじめられる側になるというところが子どもの世界では頻繁に起こっています。いじめは家庭環境や学校生活、子ども同士の力関係、自分ではどうしようもない不満ややりきれなさ、大人への不信感

などが背景に潜んでいます。子どもたちが人間関係や相手への共感を学べるように、子どもたちを取り巻く環境にしっかりと目を向け、本人、教師、保護者、関係者、地域が真剣にいじめに向き合うことが大切です。

■大人は黒子に徹せよ

目黒区は「いじめ防止プログラム」を中学校1校と小学校2校に導入し、NPOに委託しています。ファシリテーター(進行役)が入り、子どもが自らの力でいじめを解決する力を養うことを目的としており、子どもの自主的活動が期待できます。目黒区では、毎年「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」が開かれています。開催方法は地域や学校により様々ですが、単なるセレモニーにはなりません。本音で議論ができ、自主的活動の提案につながるよう、大人は関わっていくべきです。



東京・生活者ネットワーク子ども部会の活動として、児童養護施設「調布学園」を訪ねました。退所後のサポートをする自立支援コーディネーターの役割はとても重要だと感じました。

空地の利用について

■高齢者と子育て世代「人」にやさしいまちづくり

歩道のあり方を単なる移動スペースだと考えずに、「コミュニティスペースや緑地として有効活用できるよう、区民と協働して考えるよう提案しました。例えば小さなベンチが一つあれば、高齢者や小さな子どもに優しいだけでなく、行き交う人に会話が生まれ、豊かで潤いのある街角づくりへと発展する可能性を秘めています。都心ならではの公共空間の有効活用を、もっと進めるべきだと考えます。



「タガヤセ大蔵」その②：オーナーは、祖父の入院をきっかけに多世代が交流できるような未来であって欲しいと願い、祖父から引き継いだアパートを改修し、地域交流の拠点として「タガヤセ大蔵」を作りました。

■空地の暫定利用をすべき
目黒区内には都市計画道路などの空地がありますが、そこに花を植えたり、シェア農園にしたりするなど期間限定の暫定利用ができるしくみをつくり、コミュニティ形成に寄与するべきです。ただ、アスファルトで固めて、柵で囲っているのでは残念です。

■区民とつくる公園の多様な活用
公園では団体が実績を積むと公園管理団体になることが可能で、防災や人々が出会うイベントを行うことができます。目黒区は公園がもつ様々なコミュニティ形成の可能性を広く区民に伝えていくべきです。



「タガヤセ大蔵」その①：デイサービスでは昼食をみんなで作るのが主なプログラムです。時々、タガヤセ大蔵の畑で収穫した野菜を使います。

目黒・生活者ネットワークと 広吉敦子の みんなでつくる目黒プラン

子ども 子どもの笑顔はみんなの笑顔

ひと つむぎあい、つながりあう「まち・目黒」

住まう 自然の恵みで豊かに生きる、目黒のまちをオアシスに

食べる 大切にしたい、食は命の源だから